

カーポディポンテ、Capo di Ponte

カーポディポンテはブレージャの北にあるアルプスの麓にある街です。ブレージャ県に属します。この街には、イタリアではじめて世界遺産に登録されたヴァルカモニカの岩絵群があります。世界遺産に登録されたのは1976年で、登録されたのはダヴィンチの最後の晩餐及びローマ遺跡や中世の歴史地区が世界遺産に登録されるより以前です。このヴァルカモニカの岩絵群には、1万年前の旧石器時代から古代ローマ時代のアルファベットを刻まれた岩まで、約8000年間に渡る線刻画が残っています。氷河で平らになった岩盤に彫られた線刻画はあわせて14万点も発見されています。ヴァルカモニカ（ヴァルは谷という意味なのでカモニカ渓谷との意味）は、アルプス山麓から流れるオーリオ川沿いに約70Km続いている渓谷です。この川はイセーオ湖に注がれています。ブレージャからの列車は湖の脇を通りこの渓谷沿いに進んでいきますので、湖と山河の景観が非常にきれいです。所要時間1時間35分ですが飽きません。列車もイタリア国鉄と違ってきれいな列車です。

この14万点の線刻画はいくつかの場所に公園や保護地区として保存されていますが、カーポディポンテには、国立ナクアーネ岸壁線刻画公園として保存され、見学できるようになっています。この公園は約30ヘクタールの面積があり、この中に多くの線刻画が点在しています。一番大きな岸壁には1,000以上の線刻画が刻まれています。まずはどんなものか紹介します



左の写真は今回撮ったもので。右側の鮮明なものは、岩の横に立っている看板の絵です。どう見ても男の人が走っている絵です。見難いのですが、じっと見ると見えてきます。各岩には1番から番号が振ってあり番号は100までありました。このような、わかりやすく鮮明な絵はその岩の横に看板が立っていて、そこに絵と解説と場所が書かれています。



落書きに近いような絵ですが、1万年もたつと世界遺産になってしまうのですね。この国立公園には、カーポディポンテ駅から歩いていけます。約15分の距離ですが、かなりきつい登りですので、20-30分くらいはかかります。公園のそばは木陰の中の遊歩道となっていて暑さを感じません。途中からは雄大な景色が見られ、古い教会もありますので、疲れますが飽きることはありません。この公園は、入場料はわずか4ユーロで、自然を生かした公園で中には売店もほとんどありません。また、8月は夏休みのように閉まっていたので、飲み物も食べ物もありませんでした。



カーポディポンテの街にはオリオ川が流れていてその川の周りに出来た小さな街です。街の外れのセダリーナとベドリーナ地区にも市立公園があり岸壁線刻画を保護していますが、国立公園を見れば十分だと思います。ただし、オリオ川の岸辺の山沿いに12世紀に建造されたサンシーロ教会がありま

す。山と河に溶け込んだような教会です。彼方にはアルプスの山々が一望できますので、山々の景観を楽しみながらの観光もできます。山頂には雲がかかり多少見難かったのですがそれでも雄大な景色を十分に堪能できました。



カーポディポンテに行くには、ミラノ中央駅からブレーシャに出て、ブレーシャからノルド線でカーポディポンテ駅まで行きます。ブレーシャからは所要時間は1時間35分なのですが、今回は、そう簡単には行けませんでした。ミラノ中央駅からブレーシャまでの列車（普通列車で行きました）が非常に混んでいて、出発も遅れたのですが、途中の駅で大きな荷物の乗降客が多く時間がかかり、ブレーシャまで30分以上も遅れました。ノルド線の出発時間は既に過ぎていたのですが、何故かノルド線も遅れていて列車がまだホームに停まっていた。切符を買う時間も無く、切符も買わずに飛び乗りました。この列車を逃すと2時間先まで列車はありません。仕方なくまた、無賃乗車です。いつものように自己申告して、無事に、社内で切符を購入しました。ノルド線は、イセーオ湖を通るので、リゾート客でいっぱいです。イセーオ湖で若者が降りると、今度は中年の団体かそれ以上に乗り込んできました。イタリア人はおしゃべりなので車内がすごく騒がしい状態です。おまけに、各駅には見えるところに看板がなく駅名がわかりません。突然、騒がしい中年団体がカーポディポンテだと言うので、この団体と一緒に駅名も確認せずに降りたのですが正解でした。この騒がしい中年達がいなければわからなかったもので、騒がしくても許します。何とか、イタリア国鉄の遅れにもかかわらず予定通りにたどり着きました。イタリアの悪いところと良いところを両方見たような感じです。

ドラマは帰り道にもありました。今度は、カーポディポンテ駅に駅員がいないのです。駅のカフェと

タバッキも夏休みで 20 日まで閉店です。切符が買えません。駅には、私の他にイタリア人の初老のちょっと色っぽい女性が一人だけ。このおばさんに切符はどこで買えるのかと聞くと、英語が全くしゃべれないおばさんが、自分のハンドバッグの中からもう 1 枚の切符を出して、途中の駅までの切符だけどこれを売ってあげるとのこと。それを買って無事に乗り込み、車掌さんにブレーシャまでの精算を頼むと、この親切な色っぽいおばさんが車掌さんに状況を説明してくれて、問題は一挙に解決しました。おばさんが、わざわざ途中までの切符を売ってくれたのは、どうも、あまり無賃乗車はよろしく無いからのようです。イタリア人に感謝です。今日は、イタリアの悪いところより、良いところの方が多いい日でした。おかげで、帰りの列車では、「世界の車窓」からを満喫できました。



ミラノ中央駅発の 7 時 25 分の列車でブレーシャに行き、ブレーシャ発 9 時 3 分のノルド線で、カーポディポンテ駅着が 10 時 38 分の予定でしたが、実際には 10 時 50 分頃に到着しました。ノルド線は 2 時間間隔なので午前中は 2 本しかありません。帰りは、14 時 15 分発でブレーシャに戻りました。アパート着は午後 6 時過ぎです。この後のノルド線は、カーポディポンテ発 16 時 15 分となり、アパート到着が午後 8 時過ぎになります。料金は、イタリア国鉄、ノルド線ともに片道 5.55 ユーロですので、片道合計で 11.1 ユーロです。ノルド線はきれいで冷房付ですので、非常に快適です。

今回は、飲み物も弁当も持って行きませんでした。国立公園には、ジュースの自動販売機があるだけでした。カーポディポンテの街の中も、全く店が開いてなくて、結局、ブレーシャまで飲まず食わずでした。夏休みという事もあるでしょうが、世界遺産とは思えないほど観光に力を入れていない只の田舎町です。そこがいいのでしょうか、1 件くらい店は開いて欲しいですね。